

地域ネットワークニュース

～平成22年1月の勉強会のお知らせ & 12月の勉強会報告～

第147回地域ネットワーク勉強会

平成22年1月19日（火）19:00～
保健・福祉会館内にて

精神科受診のススメ！

未受診の精神疾患の疑われるケースへの介入について

参加費無料

講師：銚子こころクリニック 精神保健福祉士 石上るみ子氏



地域の中には医療機関につながってあらず、夜眠れなかったり、誰かに攻撃されているといった被害妄想や、自分にしか聞こえない声（幻聴）に従って非現実的なことを話したり行動するといった症状のある人たちが少なからずいます。そういった人たちに関わる家族や周囲の人たちはその異変に気づいていても、本人には自覚がないことがほとんどです。

こういった症状により苦しんでいる本人や、その家族、地域住民にとって最優先されることは、本人の早期の受診による治療の開始です。しかし、こういった精神科での治療が必要と思われる人たちへの介入は、本人が受診を拒否する、本人に病識がないといったことから困難を極めます。



20年の実績の石上さん

今回は実際に精神科クリニック（前職は総合病院の精神科）で急性期の未治療患者や受診の途絶えた患者支援をしてきた精神保健福祉士の石上さんに、精神疾患を抱える人たちを支える機関について、また急性期にどの機関にどういう役割があるのか、それぞれの機関はどのような連携のもとに本人に介入するのか。これまでの石上さんの関わってきた事例をもとにお話しいただきます。

第146回地域ネットワーク勉強会報告 平成21年12月2日開催 <参加者52名>

事例から学ぶ発達障害児への支援

【茨城県発達障害者支援センター 高松秀彦氏】



子どものそれぞれの発達の違いを理解するためには、発達の早い 遅い、得意 不得意を子どもの実態から読み取ること。そして、「できないことをできるようにする」のではなく「どうすればできるのか」という視点から、配慮や支援を考える必要があります。

今日の社会全般の構造や環境は、定型発達（発達になんら問題のない）の方を基準としているため、得意 不得意のアンバランスさが強い人たち（非定型発達）には、分かりにくく、あらゆる場面に「生活のしづらさ」が存在しています。それがストレスとなったり、不適応とされる行動に結びついていることが少なくありません。

本人にとって、分かりやすい、生活しやすい状況 環境に近づけていくことが支援であり、本当の意味での『バリアフリー化』であると、多くの事例から感じることができた研修会でした。

お問い合わせ：神栖市社会福祉協議会 まちづくりグループ 0299-93-0294